

J2.978:1

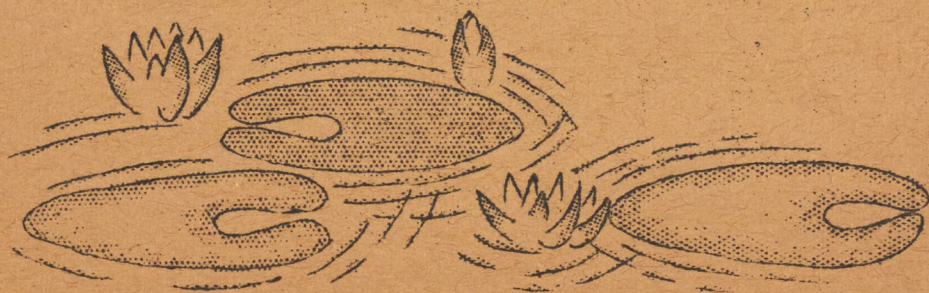
1072

\* HORIN, Temple Bulletin, 1943

67/14  
C



法輪  
新年號





境涯きやうがい  
現世げんせいに於ける  
まはりあはせ

## 新春と希望の朝

長藤行精

新春に際して。

轉變てんぺん極りなき世界に人生々活を営む私共の  
境涯きやうがいも亦不定にして現第二次世界戦乱は拡大  
し過去を回想すれば一朝の夢と化す今日、新  
春を迎えることは國家も個人も共に夫々新な  
る志念しねんと活動進路を開く時、幾多先往の後に  
尊き人命を惠まれたることに於て歡喜と慶賀  
を捧ぐ次第なり。

希望の朝。

朝は海も山も風波静まり生物の心も安らかに  
力身ちからみに満ちて旭日輝けば朗々と響く萬象の  
聲はいやましてゆく。元旦は一日の朝とや言



謹みて新春の御挨拶を申上ます

一九四四年一月一日

ホストニ 佛教寺院

日蓮宗 石原慈禎

眞宗大派 泉田準城

眞言宗 曾我部了勝

眞宗本派 長孫経精

日蓮宗 倉橋智教

眞宗本派 升呂隆英

幹事

風間龜治



舍利弗、阿難等  
お釈迦様のお弟子  
に十人のすぐれた  
方があつた、その中  
の方々

發揮  
あらはす  
断案  
だんあん  
断定

高潔  
高くいふ

所見  
考へ

否、三千年の昔、人生最後の勝利は何？

と舍利弗、阿難、阿那律等が安陀林に於て論

議せる最後の所判として、釈迦牟尼佛は物質

的なものや、努力精進、才能、智慧、皆、

何れも重要なものではあるが、それ等は皆、

人格を高潔にする事を基礎としなければ、本

當の力を發揮することは出来ない、故に汝等

も最後の断案に従つて、自分の人格を清く高

めることに専心しなければならぬ、

と教へられた。福力太子因縁經は即ちその物

語りである。

吾らは修養を怠らず高潔圓滿なる人格と加之

深き信仰力により永劫不變の中心を作り上げ

て行く事に心掛けねばならぬ、

今、工藤氏の所説を借りつゝ、所見を述べたい

明月や坐頭の妻の泣く夜かな



包藏もつ

泰斗 權威  
人々の最も仰ぎ  
たつとぶ人

事實  
實際のこと

はん無量壽經に佛の遊履し給ふ所天下和順日  
月清明風雨時を以てなすとあり実に朝は一切  
の功德を包藏し而も希望の光あふる。  
希くは此の新春希望の朝を迎え自勵健在平  
和の朝の鐘を共に待たん。

## 修養と信仰

石原慈禎

児童心理學の泰斗、高島平三郎先生は、修  
養はピラミツドのやうに、その心掛は氷山の  
やうであれ、といふ意味で修養と練磨と、心  
の奥底しさを説いて居られる。  
工藤義修氏は其の著『人生莊嚴』の中に幾多  
の尊い事實を引證して、吾々の修養に資すべ  
く説述されてゐる。



方角

中心があつてこそ  
東西南北がある

多角

角が多い程円に  
近い

古歌の意味

人の心といふものは  
池の水のやうに  
ニつたりスニたり  
定まらないものだ

楕円



る、この一ツの中心が尊いのである、  
方角にしても中心無しの方角はないやうに、  
不動の中心を基として描かれたものが円であ  
る、工藤氏は、私は望む人は円くあれ然らず  
んば多角であれといつてゐる、  
人はこの一ツの不變の中心を得るために、修  
養と信仰の力とが必要なのである

池の水己が心に似たりけり

濁り澄みえに定めなければ

の古歌の如く、人生々活は楕円的になり易い  
何故、楕円は悪い？

円の二ツ集つたものが楕円形である、楕円に  
は随つて中心が二ツある、一ツの中心は濁で  
あり穢濁であり、悪であり私心である、即ち  
憎い、嫌い、癢だ、不平、愚痴、悲み、歎



なぜ明月は夜に寝ることさへも惜しみて眺め入るのであらうか、

アノ澄み切つた明月には、田満田明、而も清くして温和な光、云ふに云はれぬ優しさと、なつかしみがある、

それだからであらう？ さうかも知れない、しかし又、

我々の心の何処かに田満を望む心があるからではなからうか、田満な人格、力溢るゝ生活朗かな気分、あの月のやうにありたい、と望む心がある、この心から月を懐かしみ、月を憧れるのであらう、三文の童現から百文の絢まで玉を好まぬものはあるまい、玉に對する吾々の概念は満丸である、然らば、田は何故尊いのか？  
それは永遠不変の一つの中心があるからであ

公明、  
としより、古老  
概念、  
かんがへ、



永劫  
大變えしい間う

さればこの一大中心は如何にして得るか、即  
修養と信仰の力によりてのみ得らるゝ、この  
永劫不変の尊い中心、この心から。素直に泣  
いてやれる人ともなり、強く忍び笑つて難に  
処する人ともなるのである、この涙と笑こそ  
誠に尊いのである、涙ある人は何時も強い、  
日蓮は泣かぬとも涙ひまなし  
といはれた、この涙ある日蓮であればこそ強  
かつたのである、毎に人を思ふ涙の前には如  
何なる力も無力である。

人の世には時々暗黒が訪れる、  
さういふ時人々のなすことは、愚痴か不平か  
悲しみか、歎きである、しかし愚痴や、不平  
や、歎きや、悲しみで、不幸や災難、暗黒が  
取り拂はれた例はない、この暗黒を拂ひ光を



私心  
身勝手な心

道心  
道徳心  
道を求めん心  
(菩提心)

本来  
性  
もとく  
うまれつき

き等の一面である、私心ししんによる勝手気儘には  
躑はな躑はないて泣かねばならぬ毒素が含まれてゐ  
る。

しかし他の今一ツの中心とは、清、清淨、善  
道心だうしんである即ち、勿体もったない、有難い、氣毒だ、  
可愛想に、愧はづかしい、感謝、喜び、法悦、  
笑等の一面である、善への憧あこがれから、これで  
はならぬ、といふ心が動くのである。

孔子は人心(私心)惟危いゑい、道心(徳心)惟微いゑいと教へ  
て居らるゝが、この二面即ち二ツの中心をも  
つ生活が吾々の生活であり、これが即ち楕圓  
的生活なのである。

しかし人は本来性は善也、田であれ、田満で  
あれ、と望む、この永遠不変の一大中心こそ  
最も大切なのである。



# 戦後の佛教

泉田準城

感想 所感

事にふれて起る  
想ひ、

唱導 唱へはめぬ、  
いふ、

國策

一國のはかりごと、

アナガチ

無理に、して、

改革

改めなほす、

和魂漢文

和魂欧文

支那や西洋の

字問をして、

和魂を失はぬ、

三經

法華經

勝鬘經

維摩經

或人年内に新年号の感想文を請ふたれば新年が来ないのに其感想が書けるかいと言つたと聞いた事もあるが、長期戦を唱導し乍ら戦後の國策を論する位だからアナガチ書けぬ筈はない訳である、然し宗教には新とか旧とか改革とか言ふ者は釈迦以上の人物が出て来ない限り望まれない問題と思ふ、唯その時／＼に随つて着物は替へることの必要がある文で昔は和魂漢文とも和魂欧文と言つても和魂に動搖の無い如く。

佛教にしても聖徳太子が三經を採擇なされたのも日本国体の季節に適せしめられたに、他ないものと信ずる、だから僧俗の別なく戦時



信念  
信仰の念カ

龍の口の巨難  
日蓮上人の四大  
法難の一

一陽來復  
春になる

とり戻す<sup>もと</sup>ものは、たゞ信念と笑とだけである

日蓮上人が龍<sup>たつ</sup>の口<sup>くち</sup>の巨難<sup>きよなん</sup>に

これほどの喜びを笑へよかし

と強き信念カは笑つて難に処した、

日蓮は泣かぬども涙ひまなし

これ程の喜びを笑へかし

この涙と笑ひこそ日蓮上人の偉大さがあつたのである。

五尋<sup>いちやうらいぶ</sup>も一陽來復と共に修養と信仰を<sup>はげ</sup>勵み一大  
中心を得て、涙ある人となり笑つて難に処す  
る人となるべく精進したい。





逆境  
思ふやうにならぬ  
まはりあはせ

生命  
最も大切  
所以  
何々するわけ

肝腎要  
一番大切で必要  
なり

然るに現在轉住所に在る吾々は徒らに日を  
送り無意義に新春を迎へる者ではないであら  
うか、凡そ吾々日本人として新春を迎へる氣  
持はそれが如何に逆境や苦境であらうとも、  
總てのものの喜々として、憂なく悲しみなく怒  
りなく怨なく、喜色満面、洋々和平の氣、野  
を包み、山を包み、村を包み、人は冬籠  
りより躍り起きて、各人各個の胸に「元旦の  
計」を立てる所に、元旦の新たなる生命の所  
以があるのである。

だが或人は云ふであらう、家も職業も地位  
もない現在の吾々にどうして希望や元旦の計  
が立てられようと、私はこれらの人々に、こ  
う答へる、『元旦の計』たるや果して物質欲  
とか外面的だけではない、最も肝腎要の己が  
心の計がある筈であらうと。



對機說法  
人を見て法を  
説く。

萬計  
いろくな計畫

と戦後を問はず脱眼以て時の流れに意を注ぐ  
様に也なくては、商店に客足が少ない様に宗  
教も同じ道理と考へられる。

さて戦後の氣候は暑い寒いかなドンな品物が  
流行するか準備肝要、新尊の對機說法に就て  
十二分の刮目ありや否や他を觀る前に先づ自  
己を。

## 新春感語

曾我部了勝

世界第二次大戰が突発して三度目の年こゝ  
に改まつて、戦時中とは申也、この新しき春  
を迎へ、『今年こそは』の希望の光に感激し  
つゝ、萬計湧き来つて春の潮の如くである筈  
である。



客舎  
旅のやど

本居  
木宅

宇宙無限  
天地の間  
限りない……

縮小  
ちいめろー

無辺  
はてしない……

衷心  
まごころ、

の慣いである。

弘法大師は般若心經秘鍵と云ふ經典の中に

『三界ハ客舎ノ如シ、一心ハ是レ本居ナリ』。

と述給ひ下されてある。宇宙無限の永さ之を

縮小すれば可今である、宇宙無限の廣さ、

歸す所可一心である、皆様と共に可一心

と『今』、この根本に思を致し、道を究め、

眞を探り、新らしい年に向ひ、日本人だけの

持つ洗心清められた新なる心、満ち溢るゝ、

元旦の力を注ぎたいと衷心より切望するもの

である。





謙徳

へりくだるよい行

矯正

ためなほす

礎石  
どたい石

内面的生活の……  
自分の心を修め磨  
く

さういへば事がむづかしいやうだが、私のいふのは理窟ではない実行である、思索より、体験である、たとへば本年は人の悪口を云はぬ事にしようとか、叱言を云はず、決して怒らず常に微笑を湛へようとか、謙徳の修養を致さうとか、自分の短所を矯正して見ようとか、それらに關して、元旦の新たなる心、満ち溢れる力を傾注して見たいものである。それが人間を築く礎石であり、人生を営む出発点でもある故に。

併しながら、これは心鏡を研ぎ澄まさなくては分らないことである、ぼんやりした心の鏡では、それは無駄骨折としか思へないであらう、さればこそ、つい眼前の事、物質の事に囚はれ勝ちになつて、己れに就ての考察、内面的生活の体験をおろそかにするのが世人



れるのは、たゞそれだけでなく、何か若者よりも多く経験があるとか、又知識能力があり妻子眷属があり名譽財産等があるからではないでせうか。

人は長命と共に名譽財産がほしい又知識文能がありたいこれらを持つ人を世間では幅のきく人といふ、しかしよく考へるとたゞ知識文能があるだけで尊敬すべき人とは云はれない、況や名譽財産等に於ておやであります。立派な辞書、精巧な機械は便利であり重宝ではあるが尊敬することが無い様に、只もの知り能力家だけでは尊敬されるものではない。人間として徳といふものが尊敬される根本になるのであります、徳は心のひらめきであり、心掛のよい人が徳を積で行くのであります。



積功累徳  
力を積み、徳を  
かさねる

果報者  
は合せな人

積功累徳

倉橋智敬

皆様と共に新しき年を迎へお互い戦乱の世  
にありながら無事信仰の道にいそしむことが  
出来る事を御喜び申上ます。

世間で長命な人を果報者と云はれて居ます  
が、新年を迎へてこの世の生活が一年減じた  
とかなしむ人もない、又何程歳を取つても、  
なほこれでよいといふ年はなく生きた上にも  
なほ生きて行きたいのが人間の自然の情であ  
ります。

命あつての物種、  
ものだね

亀のこうより年のこう、  
とか申し昔から年寄を大切にして居ます、し  
かしよく考へてみると年寄を大切に又尊敬さ



日蓮聖人御遺文  
妙法蓮華經御返事  
一七五一  
諺  
戒め言葉

それは尺で計ったり、お金の様に計算できる  
ものではないが、貪慾な人と一所になると自  
然自分も慾な気持がおこってくる、慈悲深い  
人のそばに居ると自然にその徳に感化されて  
善人になる。

聖訓に

『白粉の力は漆を變じて雪の如くなす須彌山  
に近づく衆鳥は皆金色なり』と  
又諺に、「朱にまじわれれば赤くなる」とある

信心もその信仰のグループに入り篤信徒に  
接し又信仰の書にしたしむ等によつて自然に  
信心な人となり徳が積れるのであります。

要するにものに、長さ、幅、高さがある  
様に、長命であり巾のきくばかりでなく、  
信仰によつて高き徳を積み重ねばなりません。





聖訓

こゝの聖訓は  
白蓮上人の訓へ、  
御遺文一六四五

日蓮聖人御遺文  
九六四

聖訓に、

『<sup>たから</sup>藏の<sup>たから</sup>賊より<sup>たから</sup>も身の<sup>たから</sup>賊すぐれたり、身の<sup>たから</sup>賊より<sup>たから</sup>も心の<sup>たから</sup>賊第一なり』と申されてあります、心の修養は信仰によつてつくりあげられるものであります。

聖訓に、

『行學の二道をばげみ候べし、行學たえなば佛法はあるべからず、我もいたし人も教化候へ、行學は信心よりあこるべく候』

と學も大切だが行が大切である、その學問も行も信心が根本でなければならぬと教へられて居ます。學問をさして親不孝者になつたり、トラブルメーカーになつたりするのは、信心がないからであります。

では信心によつて徳は如何様に積まれるか





童話

さうぎの餅つき  
長藤

斯く考えて来客の時のテーブルなどには子供を参加させない様にすることは客に對しても迷惑をかけず、子供も自然の内に社会人としての本分を感じさせる一つのしつけであらうと考えます。

泉田、

昔々大昔印度の國に廣い野原があり小川が流れて景色のよい所でありました。今日も良い天気！猿さん狐さんは何うして来ないん

だらう一匹の兎さんが独り言をいつてゐます、ザブザブ前の川で泳ぐ音がしますオヤ！狐さん居たの！さあ一緒に遊びませう。猿さんは今日何うしたのでせう狐さんが言ふと、アツハ、と水の上で笑ひ聲がしたのはお尻の赤いお猿さ



## 子供のしつけ方

小笠原流  
足利時代に小笠原  
長秀の創めたる  
武家礼式の一派

之には種々の意見がありますが大体に於て  
一ツには嚴格にしつけると言ふのと今一ツは  
型に入れた様にせず小供の天性に随つて育て  
るが善いと言ふので何れが是か非か一言に判  
断出来ませぬが、實際から言ふと偉い子供は  
放つて置いて立派に成人するものもあり小  
笠原流にしつけても、だらしなく成つてしも  
う者もある、然るに何故一般に嚴格に育てる  
が善いと言ふかなれば、例えば子供本位など  
言つて他人に迷惑をかけやうが気まゝにさせ  
て置くのは小兒を自由に延ばすためと言つて  
親が犠牲に成るのは善いとしても他人にまで  
迷惑不快を感じさせることは礼儀上からして  
も考えねばなるまい。



# Temple Bulletin



## 1943 Y. B. A. Cabinet Members

President -----	Takenori Nimura
1st Vice President	Takeo Isobe
2nd Vice Pres.	Kimie Ishikawa
Secretary	Toshiko Awaya
Treasurer	Mosako Deguchi
Auditor	Tom Tanomachi
Research Ch.	Nobuo Fukuda
Music Ch.	Kimie Nishimoto
Publicity Ch.	Shigeki Fujii
Devotional	Eizo Etow
Chairmans	Hatsue Okabe

Due to early printing, We we were unable to  
list the newly elected 1944 Cabinet  
Officers



んでした。

三匹が鬼ゴツコヤボール

遊びをしてゐると一人の、

お爺さんが杖にすがりやつ

て来まして、モシ／＼私は

腹が空いてゐるから何か下

さいと云ひました。

三匹はそれ／＼探しに行

つて猿はリング、狐は狸を

持つてかへりましたが、免

は何も持ちませんでした、

すまないが、猿さん、狐さ

ん少枯木を取るから手傳つ

て下さいと免が云ふので何

するのだらうと云ふまゝに

集めました、免は火がつく

と、私は何もお爺さんに上

げるものがないから免の丸

焼をつくるから食べて下さ

いと言つて火に飛び込みま

した。

皆が感心してゐる中にお爺

さんは、佛さまになつて免

さんをだいて高く空に登つ

て、この免は感心なよい免

です、可愛がつて下さいと

月姫様にたのみました、そ

れからこの感心な親切な免

さんのことを私共にしらせ

忘れないうやうに、いつもお

月様の処でお餅を搗く免さ

んが見えるやうになつたとさ。



# MESSAGE

by TAKANORI NIMURA

Another year in the page of the glorious history of the Young Buddhists' Association is about to be turned. As we turn back and look into the progress of the past year, we are enlightened of the knowledge that our unselfish efforts were not in vain. With Sangha as our guiding light, we strove through the darkness, as one force in spirit, in mind, and in thought, true to the aims of the wonderful organization, whose cause is but for the welfare of all mankind. Now we must look forward and ever onward into the future wherein lies our greater work yet to come. Let us all, as one vow, to carry on, to continue in this struggle to keep the flame, of the symbol for which the Young Buddhists' Association reflects, burning brighter and brighter. With the same spirit of cooperation we have known, let us go forth to the great work for humanities' cause harmoniously in brotherly love.

With Gassho,

Takanori Nimura,  
YBA President



# MESSAGE

by S. YOSHIMURA

Again the time has come to bid good-bye to the old year and to welcome the New Year. It is indeed gratifying and in the same breath encouraging to look back into the accomplishments and the many activities sponsored by the Young Buddhists' Association during the past year.

The Young Buddhists' Association:--let us forever strive to attain the aims and ideals of this most inspiring organization. And, at this time we feel that a glowing tribute is due to our President, Mr. Takano-ri Nimura and his ever loyal cabinet members, all of whom shared alike the heavy responsibilities of the past year. And to the many members, all of whom, have whole-heartedly cooperated and supported our various activities, we are most grateful.

During the coming New Year, may we overcome all difficulties and obstacles with absolute faith and reliance in Amida Buddha. Let us participate with reverence and understanding in maintaining the Buddhist principles of Universal Brotherhood and Love.

With Gassho,

(Mrs.) Shizuko Yoshimura,  
Young People's Director



# RELIGION

There are many who maintain that Buddhism is a philosophy and not a religion, and the question naturally arises, is this so? It depends in great measure on what one means by religion. If by this word (religion) is meant the narrow Greco-Roman Christian cultural idea of religion, the belief in a personal God and certain dogmas, then Buddhism is not a religion. But if one means that innate feeling with a man, by which he experiences a certain relation to the Universe, which relation may be embodied in certain concepts on which he attempts to base his conduct; if the doctrine which expresses these concepts satisfies the heart and mind and gives consolation and assistance in all circumstances of life, then Buddhism is a religion, as its adherents in past and present times testify. A deep spiritual peace comes to those who "live the life."

from The Life and Teachings  
of the  
LORD BUDDHA BUDDHIST SYMBOLISM